

色彩基準（数値基準）

Setagaya Color Guide

- 右表の範囲から、周囲の街並みの色彩を考慮した色彩を選定します。

※P20「使用可能な色彩の範囲」参照

対象部位	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R ~ 5Y	4 以上 8.5 未満	4 以下
	その他の色相	4 以上 8.5 未満	1 以下
屋根色	5YR ~ 5Y	6 以下	4 以下
	その他の色相	6 以下	2 以下

<数値基準の例外>

- 屋根色について、陸屋根の場合は明度を7以下とすることができる。
- 着色をしていない透明ガラスや型板ガラスについては、周辺の景色や空の色彩などを反映し、その色彩が一定でないことからこの数値基準によらないことができる。しかし、着色をしているガラス等については、この色彩基準を踏まえるものとする。
- 地区計画など一定の広がりの中で地域特性を踏まえた数値基準が定められている場合は、この数値基準によらないことができる。
- 石材などの自然素材を使用する場合は、風景づくり委員会などの意見を聴取した上で、この数値基準によらないことができる。
- 地域の良好な風景づくりに貢献する場合または用途上やむを得ないと認められる場合などについては、風景づくり委員会などの意見を聴取した上で、この数値基準によらないことができる。

色彩基準の考え方

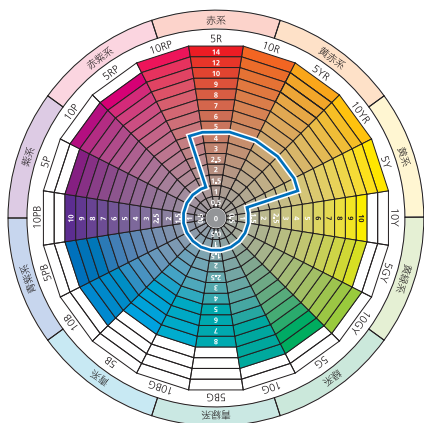
Setagaya Color Guide

対象部位	考え方
外壁	<ul style="list-style-type: none"> 区内で多く使用されている暖色系の色相を用い、統一感のある街並みとなるよう配慮する。暖色系以外の色相を使う場合は彩度を低くするよう配慮する。 緑の中から突出ししやすい白系の色彩（明度 8.5 以上）を用いることは避ける。汚れが目立ちやすいパステルカラーの使用は避ける。 明度差（コントラスト）の大きい配色や複数の色相による配色などは街並みに違和感が生じやすいため、配色は明度差を5未満におさえた同系色を用いるよう配慮する。 中高層部は遠景からの眺望に配慮し、空と対比が大きい暗い色（明度 4 未満）を避け、彩度も低めにおさえるよう配慮する。
屋根	<ul style="list-style-type: none"> 崖線上等からの眺望や周囲の街並みや樹木などとの調和を考え、低明度、低彩度の落ち着いた色彩を用いる。
緑との調和	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の樹木との調和を図るため、樹木の色彩（明度 5、彩度 6 程度）より目立ちすぎないよう、明度および彩度の対比を和らげ、樹木と調和しやすい暖色系の色相を用いるよう配慮する。 花や新緑、落葉など、季節ごとの風景の変化を踏まえた色彩に配慮する。
素材	<ul style="list-style-type: none"> 反射や光沢の強いものは避け、落ち着いた自然な表情の建材や塗料を用いるよう配慮する。

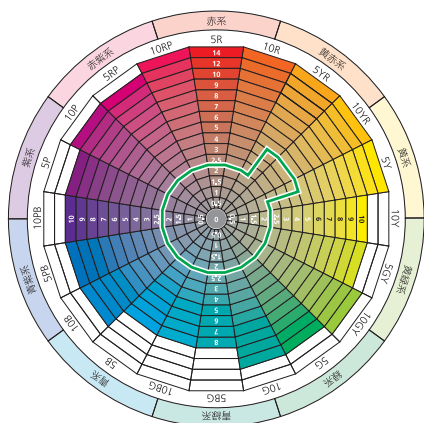
使用可能な色彩の範囲

Setagaya Color Guide

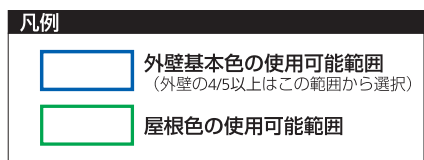
この範囲の中から、計画地の風景にふさわしい色彩を選定して下さい。
 なお、マンセル値による基準とは別に色彩に関連する基準を定めていますので、これらも遵守する必要があります。



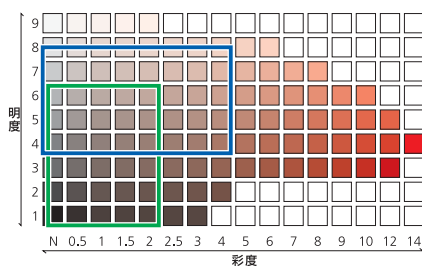
■ 外壁基本色の使用可能範囲



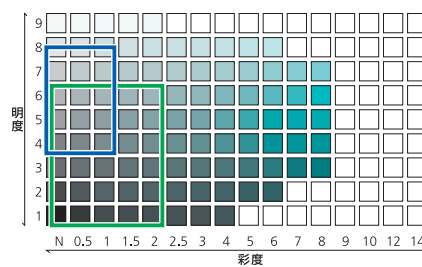
■ 屋根色の使用可能範囲



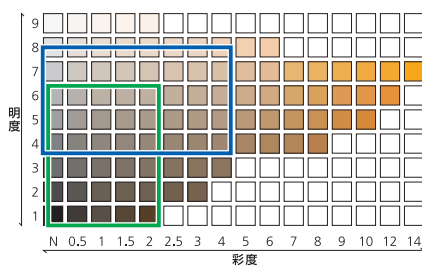
0R~9.9R (赤) 系の色相



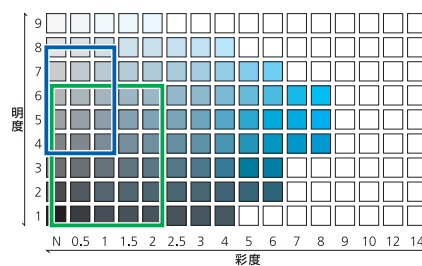
BG (青緑) 系の色相



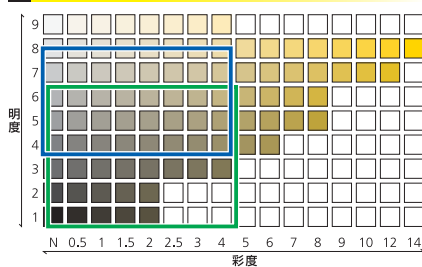
10R (0YR) ~4.9YR (黄赤) 系の色相



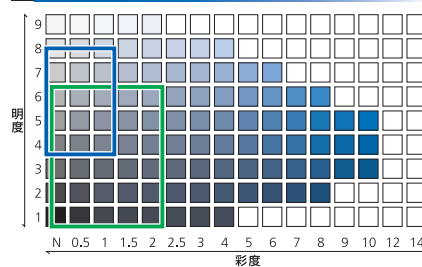
B (青) 系の色相



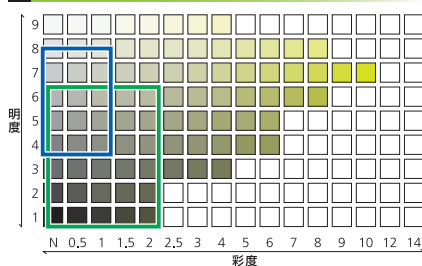
5YR~5Y (黄) 系の色相



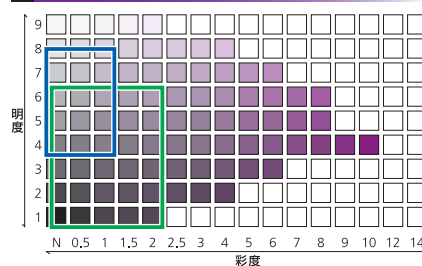
PB (青紫) 系の色相



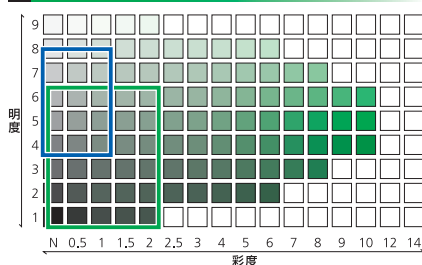
5.1Y (黄) ~GY (黄緑) 系の色相



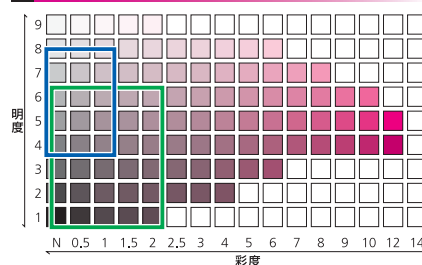
P (紫) 系の色相



G (緑) 系の色相



RP (赤紫) 系の色相



風景づくり重点区域—水と緑の風景軸の色彩のポイント

色彩に関連する 風景づくりの基準

Setagaya Color Guide

- ・みどりの連続性や地形の特徴を活かし、建築物と周辺のみどりが一体となるような自然で落ち着いた色彩風景の形成を目指します。

風景づくりの基準 (色彩に関連するもの)

建築物	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の街並みスケールを考慮し、長大で平滑な壁面を生じさせないなど、壁面の分節化や色彩の工夫等により圧迫感の軽減及び街並みの連続性を図る。特に低層の街並みに隣接する場合は、低層の街並みからの見え方に配慮する。 ・角地や道路の突きあたりなどアイストップとなる場所では、形態・意匠・色彩を工夫し魅力ある風景づくりを図る。 ・色彩は、色彩基準に適合するとともに、色彩の考え方を踏まえ、周辺の風景との調和を図る。(P.19-20 参照) ・屋根・屋上に設備などがある場合は、周辺からの見え方に配慮し目立たないように工夫する。 ・建築物に付帯する構造物や設備は、崖線からの見下ろしや歩行者からの見上げ、周辺からの見え方に配慮し、建築物との調和を図る。
工作物	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩は、色彩基準に適合するとともに、色彩の考え方を踏まえ、周辺の風景との調和を図る。(P.19-20 参照)

代表的な色彩例

Setagaya Color Guide

- ・崖線の自然に溶け込む風景を形成するため、明度を抑えた暖色系色相の低彩度色を推奨します。
- ・壁面が大きくなる場合は色彩の分節化や自然素材の採用により、みどりになじむ外観とします。
- ・崖線の内部では、落ち着いた色調の勾配屋根を採用することも周辺との調和に大きく貢献します。

建築物の色彩

	5YR	7.5YR	10YR	10YR	2.5Y	5.0Y
8.0以上	5.0YR8.0/0.5 [15-80A]	7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR8.0/0.5 [19-80A]	10YR8.0/1.5 [19-80C]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y8.0/0.5 [25-80A]
7.0以上	5.0YR7.5/1.0 [15-75B]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.0/1.5 [19-70C]	10YR7.5/1.0 [19-75B]	2.5Y7.0/1.5 [22-70C]	5.0Y7.0/1.5 [25-70C]
6.0以上	5.0YR6.0/1.0 [15-60B]	7.5YR6.0/2.0 [17-60D]	10YR6.0/1.0 [19-60B]	10YR6.0/2.0 [19-60D]	2.5Y6.0/1.5 [22-60C]	5.0Y6.0/1.0 [25-60B]
4.0以上	5.0YR5.0/2.0 [15-50D]	7.5YR4.0/2.0 [17-40D]	10YR5.0/1.0 [19-50B]	10YR5.0/2.0 [19-50D]	2.5Y4.0/2.0 [22-40D]	5.0Y5.0/1.0 [25-50B]

屋根の色彩

	10R~5.0YR	5.0YR	7.5YR	10YR	2.5Y~5.0Y	その他
4.0以上	5.0YR4.0/1.0 [15-40B]	5.0YR4.0/2.0 [15-40D]	7.5YR4.0/2.0 [17-40D]	10YR4.0/2.0 [19-40D]	5.0Y4.0/1.0 [25-40B]	5.0GY4.0/2.0 [35-40D]
2.0以上	10R2.0/1.0 [09-20B]	5.0YR3.0/1.0 [15-30B]	7.5YR3.0/3.0 [17-30F]	10YR3.0/1.0 [19-30B]	2.5Y3.0/2.0 [22-30D]	N3.0 [N-30]

凡例  上段：マンセル値
下段：日本塗料工業会標準色見本帳番号

風景づくりのイメージ

Setagaya Color Guide

- ・崖線のみどりが建物の背景を大きく占める場所では、自然の彩りが引き立つよう外壁の明度を抑えます。屋根には低明度・低彩度色の落ち着いた色調の勾配屋根を使用します。



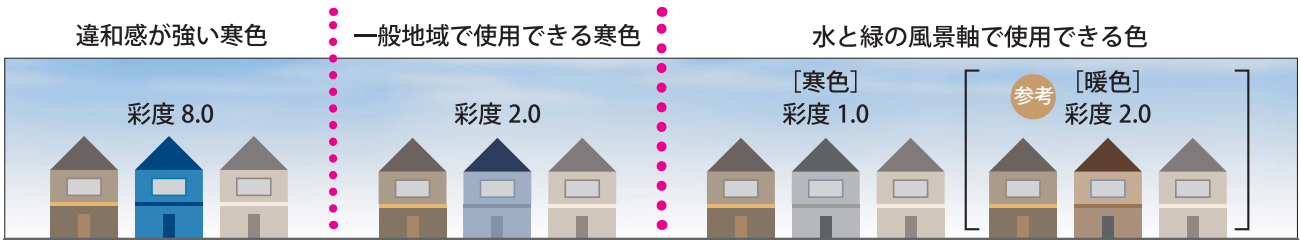
コラム

色彩基準の
よくあるQ & A

色相 どうして暖色中心の基準になっているの？

考え方…暖色基調の暖かい街並みを継承する

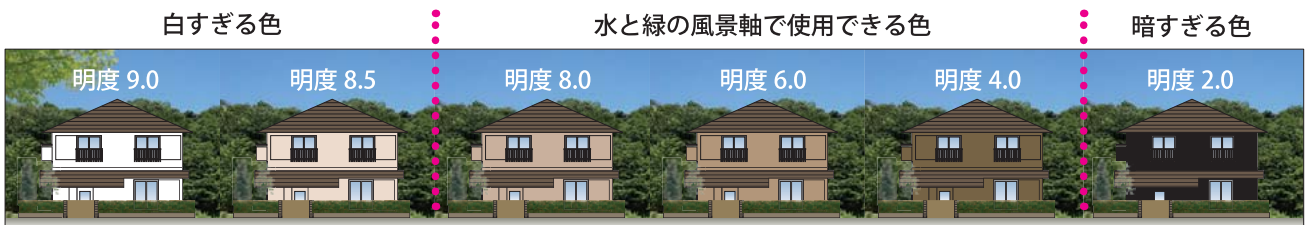
- ・区内のほとんどの建築物等が穏やかな暖色を基調とした色彩でまっています。このような風景の中で配慮なく寒色や無彩色が用いられると、周辺との違和感が強くなってしまいます。



明度 白が派手!? 水と緑の風景軸ではどうして白が使えないの？

考え方…建築物の色彩はみどりの連続性を分断せずに溶け込ませる

- ・新たに加わる建築物等が極端に明るい色調（明度8.5以上）になると、国分寺崖線の連続性が分断された印象になってしまいます。
- ・色彩は「周辺の色との対比」の中で知覚されますので、周辺の明度が抑えられたみどり豊かな環境の中では、明度8.5未満のオフホワイトや生成色でも白っぽい明るい雰囲気をつくり出すことは可能です。



外壁の明度が9.0程度になると背景のみどりから浮き立ちます。明度は適度に抑え背景になじませます。

彩度 どうして彩度は6が上限なの？

考え方1…建築物の色彩は豊かなみどりの色彩よりも目立ち方を抑える

- ・盛夏の落葉樹の葉の色彩は、概ね彩度6程度の鮮やかさをもっています。
- ・みどりを活かした風景をつかっていくため、みどりよりも建築物等の色彩を抑えていくようにします。

考え方2…現況の風景を反映し落ち着いた街並みを継承する

- ・建築物等の外装に用いられる色彩を調査すると、最も鮮やかな色調をもつレンガ等でも彩度6までの範囲に収まることが確認できています。



建築物の色が彩度6を超えると、周囲のみどりがかすんで見えてしまいます。



塗装のレンガ色と焼き物のレンガでは彩度の違いとともに印象が異なります。